

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第10巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/1517924>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 10, 2014-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

1. はじめに

昨年度より開始された国立大学附属病院長会議「国際化プロジェクト」が本年度本格的に動き出した。将来像実現化行動計画 2013 に基づき、まず 10 月に担当医師と担当技術者が一堂に会した第 1 回全国会議が福岡で開催された。情報通信技術を活用した遠隔教育による国際化の推進が参加者全員で承認され、技術的な準備が開始された。2 月に 34 大学が一斉に接続した遠隔会議において来年度へ向けた方針が議論された。これまでは各診療科が個別に対応していた現状が大きく改善され、今後は大学毎に統一された体制で本プロジェクトを推進できるようになった点でその意義は大きい。

さらに今年度も多くの国々から多くの施設が新たに参加し、様々な分野で活動を拡大した。これまでの DVTS と呼ばれるシステムに加え平成 23 年度以降は新たなシステムが登場したことで、その応用範囲が一挙に拡大しつつある。研究教育用ネットワークと呼ばれる大容量のインターネットが無くともある程度の画質が確保できるようになったことで、大学病院など限られた施設のみならず地域の基幹病院の参加が大きく広がった。また双方向のやり取りはできないまでも、テレビを見るように一方方向でプログラムを受信し質問はメールで返すというストリーミング技術が実用化されたことで、小さなクリニックや家庭からでも参加が可能となり、活動に新たな局面を提供することとなった。また世界的な研究教育用ネットワークの観点からみれば、CAREN が本格的に稼働し始め今後は中央アジアからの参加が見込まれる他、今後ワールドカップやオリンピックが開催予定のラテンアメリカ圏とのさらなる交流が期待されている。

コンテンツでは手術や内視鏡の分野が依然として全体をリードし、時差の少ないアジアを中心として定期的なテレカンファレンスが行われているが、これまでにない分野も新たに加わった。8 月には耳鼻科のライブ手術がアメリカ・シアトルから日本の 3 大学病院へ配信され、また 1 月には歯科分野で日本各地とインドネシアとのテレカンファレンスが初めて企画された。インターネットや映像・音声技術の飛躍的かつ継続的な進歩により技術的な問題に遭遇する機会は徐々に減少しつつあり、今後はいかに魅力的なプログラムを作成し医療のニーズを捉えて活動をさらに発展させていくかがより重要にあるであろう。

常にこの活動をサポートし続けてくれるローカルエンジニアの人を主なターゲットとするアジア遠隔医療シンポジウムが今年度はタイ・バンコクで開かれ、日本と韓国以外では初めての開催地となった。施設間また医療スタッフとの情報交換はもちろん、常に遠隔同士で仕事し続ける彼らにとっては年に一度の顔合わせは楽しみでもある。来年度も彼らの助けを得ながら活動をさらに良いものにしていきたい。

平成 26 年 3 月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター

清水周次

清水周次